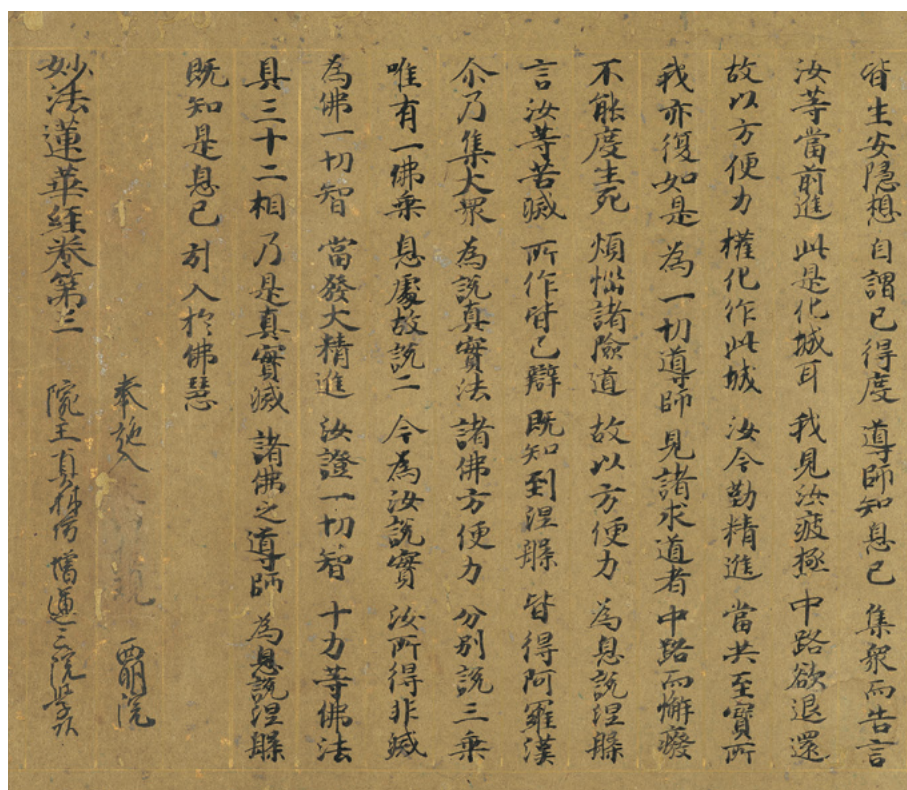


Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **124** 号

令和5年 1・2・3月



重要文化財 法華經（色紙）卷第三 当館

特別
展

春日大社 若宮国宝展
ー祈りの王朝文化ー
～1月22日(日)
東・西新館

特別
陳列

お水取り
2月4日(土)～3月19日(日)
東新館

特集
展示

新たに修理された文化財
2月21日(火)～3月19日(日)
西新館

名品
展

珠玉の仏教美術
～1月22日(日)・2月4日(土)～3月19日(日)
西新館

名品
展

珠玉の仏たち
通年
なら仏像館

中国古代青銅器
通年
青銅器館

お水取り

2月4日(土)～3月19日(日)

「お水取り」は、毎年三月に東大寺二月堂で行われる仏教法会で、正式には「修二会」といいます。東大寺大仏開眼会が行われた天平勝宝四年(七五二)に、実忠和尚によって創始されました。以来一度も絶えることなく続けられており、「不退の行法」と呼ばれています。法会の目的は、本尊の十一面観音に悔過(過ちを懺悔し、除災招福を祈る)をすること、あわせて天下安穩などを祈願します。

本展は、「お水取り」が行われる時季に合わせて開催している恒例の企画で、実際に法会で使用された仏具や信仰の歴史と伝統を伝える絵画、古文書、出土品などを展示し、今年で一二七二回目を迎える「お水取り」の世界をご覧ください。



重要文化財 三鈴鑊（堂司鈴）（奈良・東大寺）



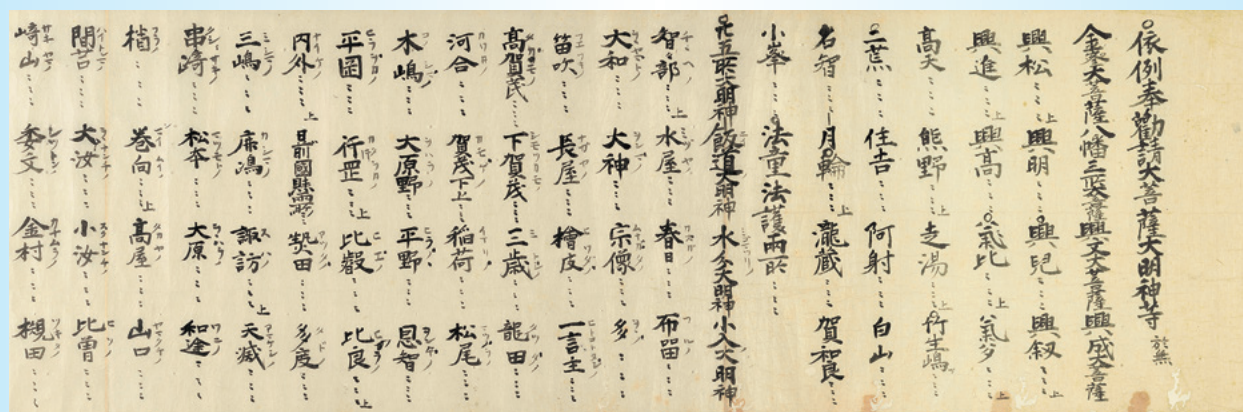
重要文化財 香水瓶（奈良・東大寺）



朱漆塗担台（奈良・東大寺）



重要文化財 十一面観音像（奈良・東大寺）



重要文化財 二月堂神名帳（奈良・東大寺）

式年造替記念特別展

春日大社 若宮国宝展

―祈りの王朝文化―

1月22日(日)

春日若宮神は、春日大社本殿に祀られる四神の御子神として平安時代の長保五年(一〇〇三)三月に誕生したと伝えられています。五穀豊穡の神、学問の神として広く信仰され、毎年十二月に行われる「春日若宮おん祭」は、大和一国を挙げた盛大な祭礼として有名です。

本展は春日若宮社殿(重要文化財)の御造替が令和四年十月に完了したのを記念し開催する特別展で、藤原摂関家をはじめとする平安貴族が若宮神に奉納した太刀や弓、飾り物など、当時最高峰の技術を集めた工芸品(国宝)を一堂に集め、壮麗な王朝文化の世界を感じていただきます。また過去、現在の御造替にかかわる器物や歴史資料から、これを支えた人々の努力の軌跡をふり返ります。



重要文化財 春日鹿曼荼羅(当館)



国宝 若宮御料古神宝類 金鶴及銀樹枝 (奈良・春日大社)



狛犬 (春日若宮撤下品) (奈良・春日大社)



獅子 (春日若宮撤下品) (奈良・春日大社)

特集展示

新たに修理された文化財

2月21日(火)～3月19日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、当館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開すると共に、その修理内容についてパネルでご紹介いたします。



聖徳太子絵伝(当館) 補綴部分への補彩作業の様子



毘沙門天(当館) 右脅先外側補足作業の様子

聖徳太子一四〇〇年御遠忌の 関連特別展を終えて

当館学芸部主任研究員 三田 覚之



奈良博会場のオープニングに伴う法要の様子

思えばこの三年間、聖徳太子一四〇〇年御遠忌の関連事業とともに過ごしてきた。令和三年（二〇二一）には奈良と東京の国立博物館で特別展「聖徳太子と法隆寺」が開催され、当時東京国立博物館に在籍していた筆者は、開催前年から担当者の一人として参加したのである。

さて、遠忌とは高僧などの遺徳を偲んで、大きな節目となるメモリアルイヤーを行う法要のことである。聖徳太子の場合は、亡くなられたのが六二二年であるため、二〇二一年が一四〇〇年御遠忌にあたった。これは亡くなられた年を一回忌、翌年を一周忌、二年目を三回忌と数えるため、一三九九年目が一四〇〇年遠忌にあたるのである。

その記念に行われた特別展は、平成六年（一九九四）の「国宝法隆寺展」以来となる大規模なものであった。特に御遠忌という点を考慮して、名品展というよりも、聖徳太子に関連する遺品や法隆寺の創建、太子信仰と関連儀式を中心とした展示を行ったのが特徴である。さらに図録についても新規写真撮影を多く行い、これまで以上に魅力的なものになったと思う。

この特別展のなかでも、特筆すべきは金堂東の間の本尊である薬師如来像と、聖霊院の本尊である聖徳太子像にお出まし頂いたことである。ともに法隆寺を代表する本尊像であり、一四〇〇年御遠忌という極めて特別な機会だからこそ実現したものと言えるだろう。薬師如来像は

用明天皇が自らの病氣平癒のために法隆寺の創建とともに発願されたものであり、崩御の後にその遺志を継いで、推古天皇と聖徳太子が完成させた尊像と伝えられている。いわば法隆寺の起源を伝える像であり、篤い尊崇を集めてきた。堂外での公開は明治八年（一八七五）に東大寺大仏殿回廊を会場として開催された第一次奈良博覧会以来のことで、人生のなかでこの尊像に親しくまみえ得たことは、本当に幸せな体験であった。

また聖霊院の聖徳太子像は、法隆寺において太子その人として特に厳格に守られてきた尊像であり、一般への公開は「国宝法隆寺展」以来二七年ぶりであった。展示会場において、その漲る威厳に圧倒された方も多かったことだろう。

これらの尊像をはじめとした寺宝の多くは奈良と東京という二会場で公開されることもあり、会場の広さの違いを考慮した展示法や安全な輸送、両館の役割分担など多くの問題を抱えながら事業は進んでいった。なんとか無事に特別展が終了し、聖霊院に太子像をお戻ししてその扉を閉じた時は、もう自分の人生でこの扉を開くことはないと、展覧会成功の感謝とともに深い感慨に浸ったものである。

ところが令和四年（二〇二二）、この奈良国立博物館に異動することとなった。そして最初に行うことになったのが、北海道立近代美術館で開かれるという「国宝・法隆寺展」の担当であった。この特別展は、法隆寺の故大野玄妙殿下の御遺志を引継いだもので、奈良国立博物館は学術協力という形で、寺宝の輸送・展示や解説文執筆を中心とした業務にあたった。聖徳太子が亡くなられてまさに一四〇〇年目のこの年、大取となる特別展が控えていたのである。

札幌市で開催という極めて長距離の移動に備え、作品の梱包や輸送法に関係各位の多大な努力が払われ、筆者は再び聖霊院の聖徳太子像とまみえることとなった。しかも今回の特別展には中宮寺の御本尊である菩薩半跏思惟像もお出ましになることとなり、一連の遠忌事業を締めくくる大変に充実した内容の特別展を開催することができた。

奈良・東京・札幌という三つの会場で行われた一連の法隆寺展。ご覧になった多くの方々にとって、聖徳太子という存在に思いを馳せることは、これからの時代を作っていく上での示唆をも得る機会となったことだろう。一四〇〇年に一度というこの貴重な機会に、展覧会の担当者として参加できたことに深く感謝をしている。

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和4年12月20日(火)～令和5年3月19日(日)

【彫刻】

【第1室】

阿彌陀如来立像

観音菩薩立像

不動明王立像

天部形立像

蔵王権現立像

役行者坐像

【第2室】

阿闍如来坐像

釈迦如来坐像

文殊菩薩坐像

毘沙門天立像

菩薩立像

【第3室】

阿彌陀如来坐像

宝冠阿彌陀如来坐像

如来坐像

阿彌陀如来立像

阿彌陀三尊像

【第4室】

薬師如来坐像

如来立像

釈迦如来立像(清凉寺式)

諸尊仏龕

諸尊仏龕

【第5室】

誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

菩薩半跏像

菩薩立像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

興福院

観音菩薩立像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

仏手

如来坐像

誕生釈迦仏立像

二仏並坐像

菩薩立像

十一面観音菩薩立像

力士立像

如来立像

如来立像

方形独尊坐像埴仏

三尊埴仏

六角形埴仏(伝三重県天華寺跡出土)

塑像片(奈良県定林寺出土)

塑像断片(迦楼羅頭部ほか)

(奈良県川原寺出土) 明日香村教育委員会

塑像断片(天部・僧形像ほか)

(滋賀県雪野寺出土)

【第6室】

増長天立像

広目天立像

薬師如来立像

如来立像

阿彌陀如来坐像

宝冠阿彌陀如来坐像

特別公開

金剛力士立像

【第7室】

光背(二月堂本尊所用)

観音菩薩立像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

千手観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

【第8室】

如来三尊像

法隆寺

観心寺

金剛寺

新薬師寺

当館

個人

個人

個人

個人

個人

光明寺

当館

当館

南法華寺

当館

当館

当館

福命寺

当館

当館

興福寺

元興寺

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

如来三尊像

十一面観音菩薩立像

四天王立像残片

阿彌陀如来立像(裸形)

梵天立像

救脱菩薩立像

【第9室】

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

准胝観音菩薩立像

明星菩薩立像

地藏菩薩立像

地藏菩薩立像

愛染明王坐像

不動明王立像

不動明王立像

軍荼利明王立像

大威徳明王騎牛像

【第11室】

閻魔王坐像

大津皇子坐像

大將軍神坐像

蔵王権現立像(五軀)

十二神将立像(子、丑、寅、卯、辰、巳)

持国天立像・増長天立像

天部形立像

二天王立像

毘沙門天立像

帝釈天坐像

毘沙門天立像

特別公開

金剛力士立像像内納入品

阿彌陀如来立像

菩薩面(三面)

破損仏像残欠コレクション

新薬師寺

薬師寺

当館

当館

当館

当館

当館

当館

個人

当館

西大寺

浄土寺

秋篠寺

秋篠寺

秋篠寺

松尾寺

西光院

文化庁

弘仁寺

大福寺

万福寺

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

名品展

珠玉の仏教美術

西新館

【絵画】

令和4年12月10日(土)～令和5年1月22日(日)

釈迦三尊像

釈迦十六善神像

玄奘十六善神像

釈迦三尊十六羅漢像

薬師如来像

薬師三尊像

薬師十二神将像

阿彌陀如来像

阿彌陀三尊像

阿彌陀五尊像

阿彌陀八大菩薩像

阿彌陀三尊来迎図

阿彌陀二十五菩薩来迎図

阿彌陀四十九化仏来迎図

発遣来迎図

阿彌陀二十五菩薩来迎図

山越阿彌陀図

弥勒菩薩像

弥勒菩薩像

弥勒来迎図

十一面観音像

十一面観音像

覚禅鈔 薬師法、阿彌陀法、弥勒法

勸修寺

子嶋寺

正智院

西大寺

文化庁

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

仏眼曼荼羅

五秘密曼荼羅

五大虚空蔵像

南天鉄塔図

文殊菩薩騎獅像

不動明王四十八使者像

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

談山神社

【考古】

令和4年12月10日(土)～令和5年1月22日(日)
2月4日(土)～3月19日(日)

深鉢形土器(伝青森県出土ほか)	当館
浅鉢形土器・注口土器ほか	当館
(伝青森県寺下遺跡出土)	当館
土偶(山形県杉沢遺跡出土)	当館
勾玉溶范(福岡県弥永原遺跡出土)	当館
銅鐸	妙国寺
銅鐸(静岡県浜松市出土)	当館
銅鐸(和歌山県日高郡みなべ町出土)	当館
銅鐸形土製品(三重県上箕田遺跡出土)	当館
銅鉾(長崎県対馬市黒島出土)	当館
勾玉砥石(奈良県桜井市三輪(金屋)出土)	当館
碧玉製合子	当館
◎斜縁神獸鏡	当館
(奈良県佐味田宝塚古墳出土)	当館
◎三角縁神獸車馬鏡	当館
(奈良県佐味田宝塚古墳出土)	当館
石釧(奈良県佐紀猫塚古墳出土)	当館
内行花文鏡(奈良県鸛塚古墳出土)	当館
金銅製龍文帶金具	当館
(奈良県五條猫塚古墳出土)	当館
ガラス玉・金製垂飾付耳飾ほか	当館
(奈良県星塚2号墳出土)	当館
装飾付子持台付壺	当館
大形埴輪(伝茨城県東海村出土)	当館
盛装男子埴輪(伝群馬県出土)	当館

【工芸】

令和4年12月10日(土)～令和5年1月22日(日)

◎春日龍珠箱	当館
百万塔 附無垢浄光経陀羅尼	当館
百万塔	当館
百万塔	個人
経帙	当館
経筒	施福寺
◎鳳凰文戔金経箱	当館
◎孔雀戔金経箱	浄土寺
◎大般若経厨子	当館
春日若宮大般若経厨子模造	西京是陽作
素文磬	当館
孔雀文磬	当館
孔雀文磬(南都新浄土寺銘)	長谷寺
孔雀文磬(長谷寺等銘)	長谷寺
蓮華文磬	個人
蓮華形磬	当館
鰐口	当館
鰐口	西方寺
梵鐘	当館
梵鐘	当館
◎髹漆卓	岩王寺
三脚卓	当館
黒漆螺鈿卓	当館
2月4日(土)～3月19日(日)	
◎火焰宝珠形舍利容器	海龍王寺
◎火焰宝珠形舍利容器・五瓶形外容器	西大寺
(鉄宝塔内納置)	当館
舍利容器	当館
舍利容器(當麻寺西塔相輪心柱納置)當麻寺	当館
棺形舍利容器	当館
錢弘俣八万四千塔	当館
百万塔 附無垢浄光経陀羅尼	当館
経筒	施福寺
◎透彫経筒	万徳寺
◎宝篋印塔嵌装舍利厨子 附法華経	当館
◎一切経箱	大長寺院
◎種子華鬘	当館
菊牡丹文華鬘	当館
素文磬	当館

孔雀文磬	当館
孔雀文磬(南都新浄土寺銘)	長谷寺
孔雀文磬(長谷寺等銘)	長谷寺
蓮華文磬	個人
蓮華形磬	当館
鰐口	当館
鰐口	西方寺
梵鐘	当館
梵鐘	当館
鼓胴	薬師寺
◎三鼓胴	手向山八幡宮
◎奚婁鼓胴	龍田大社
◎鼙太鼓縁	唐招提寺
◎鉦鼓縁	唐招提寺

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※◎Ⅱ国宝、◎Ⅱ重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

◆「奈良博プレミアムカード」の名称および価格変更のお知らせ

当館の特別展及び国立博物館4館の平常展をお得にご観覧いただける「奈良博プレミアムカード」、国立博物館4館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。WEBからも購入いただけます。詳しい情報は当館公式ホームページをご確認いただくか、当館観覧券売場へお問い合わせください。

なお、現在ご愛顧いただいております「奈良博プレミアムカード」につきましては、令和5年3月31日(金)をもちまして販売を終了し、新たに「奈良博メンバーシップカード(仮)」として5,000円(奈良博だよりの送付を希望されない場合は4,500円)で販売を開始いたします。詳しい特典内容につきましては、当館公式ホームページと公式Twitter、ならびに各種広報物にてお知らせいたします。
※現在、お客様がお持ちの奈良博プレミアムカードおよび令和5年3月31日(金)までに販売する奈良博プレミアムカードにつきましては、券面に記載の有効期限までご利用いただけます。

■新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染防止のための対策を行っています。ご来館に際してはマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。アルコール消毒や手洗い、検温等にご協力ください。

なお、展示やイベント等につきましては、状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

【表紙解説】

法華経(色紙)

重要文化財
彩箋墨書
(巻第三) 縦二八・四cm 長一〇一八・六cm
平安時代(十二世紀)
当館

大乘仏教の代表的な經典である『法華経』八巻を、巻ごとに異なる色の紙を使って書写したもので、図版の巻第三は緑色の紙。他は、たとえば巻第一には青緑色、巻第二や巻第四には淡橙色、巻第八には山吹色の紙が使われている。さらに、色染めされた紙の表面には金箔や銀箔を散らす装飾が施され、行を区切る界線は金色で引かれる。平安時代後期に数多く作られた装飾法華経の中でも、当時の人々の繊細な美意識が強く感じられる一品である。

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

※名品展「珠玉の仏教美術」にて、

二月四日(土)～三月十九日(日)に展示

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■1月15日(日)

「仏像の模刻をめぐる」

内藤 航(当館学芸部研究員)

特定の彫刻を模して別の彫刻をつくることを模刻と言います。特に仏像では著名な像が模刻される例が多く知られますが、そこでは単に「かたち」を写すだけでなく、原像がもつ背景も参照されました。いくつかの事例から、仏像を模刻する意味を考えます。

[受付期間 令和4年12月26日(月) 10:00～1月14日(土) 17:00]

■2月19日(日)

「奈良の仏教版画をめぐる Nara's Buddhist Prints」

ルウィーン・メアリー Mary Lewine(当館学芸部研究員)

「印仏」というのは、スタンプ式の小さい仏教版画です。今回は奈良の印仏を中心に uptake、儀式や道教からの影響などの視点から印仏を考察して、その信仰背景と魅力を英語と日本語両方でご紹介いたします。

[受付期間 1月30日(月) 10:00～2月18日(土) 17:00]

■3月19日(日)

「ステラネーゼ達の“断捨離”」

荒木 臣紀(当館学芸部保存修理指導室長)

物を捨てられない人種「ステラネーゼ」が多く集まる博物館。そんな博物館で行われた“断捨離”事業での苦労と、そこから見てくる文化財保存の極意についてお話しします。

[受付期間 2月27日(月) 10:00～3月18日(土) 17:00]

■4月16日(日)

「奈良の山々と美術」

松井 美樹(当館学芸部研究員)

吉野、葛城、笠置、信貴山… 奈良を囲む山々は、仏教修行の場でもありました。平安から鎌倉時代を中心に、そこに祀られた神仏と美術についてお話しします。

[受付期間 3月27日(月) 10:00～4月15日(土) 17:00]

■5月21日(日)

「百済観音の世界」

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

2020年3月から東京国立博物館で開催されるはずだった特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」。残念ながらコロナ禍のために中止となり、幻の展覧会となってしまいました。同じく中止となったその記念講演会を、ここに“初演”します。

[受付期間 5月1日(月) 10:00～5月20日(土) 17:00]

■6月18日(日)

「香の美術」

伊藤 旭人(当館学芸部研究員)

香は仏教伝来とともに日本へもたらされました。香を焚くことは、ほとけを供養する基本的な行為のひとつです。今回は奈良時代に制作された柄香炉(手持ち型香炉)を中心に uptake、その見どころを紹介するとともに、当時の焼香の意義についても考えます。

[受付期間 5月29日(月) 10:00～6月17日(土) 17:00]

【時 間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回90名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

◆特別陳列「お水取り」

■2月4日(土)

「参籠した時の醍醐味とは」

狭川 普文 師(東大寺長老・東大寺総合文化センター総長)

【時 間】 13:30～15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 90名(事前申込制)。抽選による座席指定制です。

【応募期間】 令和4年12月26日(月)10:00～1月9日(月・祝)17:00

【応募方法】 当館ホームページ「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【参加証の送付】当選者には、1月20日(金)までに参加証をお送りします。当日必ずお持ちください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募はお1人様1回でお願いいたします。

◆キャンパスメンバーズ

令和5年1月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学(以上、五十音順)

◆奈良国立博物館賛助会

令和5年1月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員6団体、一般会員(団体)17団体、一般会員(個人)101名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー、(株)大和農園ホールディングス、(株)葉風泰夢

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、(株)ワールド・ヘリテイジ、結の会、奈良県有名専門店会

〔個人会員(新規)〕

大浦 喜成様 令和4年10月ご入会

吉岡 道代様 令和4年11月ご入会

荻野 淳也様 令和4年11月ご入会

特別陳列「お水取り」

さん こ によ どうつかされい 三鈷鏡(堂司鈴)

重要文化財
銅製
長28.7cm(現状)
鎌倉時代 弘安8年(1285)
奈良 東大寺



お水取り(しゅに え)は東大寺二月堂で旧暦2月に行われる仏教法会。天平勝宝4年(752)に実忠和尚(じつちゅう かしゅう)によって創始された。「不退の行法」と呼ばれるように創始以来一度も絶えることなく勤め続けられており、今年で1272回目を迎える。

本品は、かつてお水取りで使用されたさん こによ 三鈷鏡で、ほとけの勧請(きんすう)や加持などのために振り鳴らされた。鎌倉時代に制作された遺品だが、三叉に分かれた鈷(ただし中鈷は欠失)には大きな返しや節をつけており、同時期の密教法具とは形式を異にしている。このような特徴は、奈良時代以前に受容されていた古密教(こみつ)の法具に見られるもので、古代の三鈷鏡の形式を踏襲して制作されたと考えられる。

さて、実忠和尚はお水取りを始めた15年後の神護景雲元年(767)に東大寺の東・西小塔院を建立しており、正倉院にはかつて東小塔院に伝来した鉄製の三鈷杵(鉄三鈷〔南倉53〕)が伝わっている。実忠和尚との直接的関係は措くとしても、彼が創始した法会や堂舎には古密教の法具の存在が確認できる。

伊藤 旭人(当館学芸部研究員)

展示品の みどころ

名品展「珠玉の仏たち」

しゃ か によらい ざ ぞう 釈迦如来坐像

木心乾漆造 漆箔
像高38.8cm
奈良時代(8世紀)
神奈川 東慶寺



さる篤志家(とくしか)により北鎌倉の東慶寺に寄進された像で、このたび縁あって当館に寄託された。X線CTスキャン調査により、頭・体幹部は広葉樹の縦一材より彫出して頸部(けいぶ)で一旦上下に切り離し、襠材(まちざい)を挟んだうえで、襠材中央に穿った孔にうが(うが)を挿入して頭部と体部を繋いでいることが判明した[右図]。



頬が丸く張り、口もとを引き結んだ威厳のある表情や肩幅の広い重厚な体つき、左肘部の強さのある衣文(えもん)により、小像とは思えない存在感を放つ。こうした特徴は奈良時代後期から平安時代初期の作品と共通し、木屎漆をたっぷりと盛りつけることで胸腹部の豊かさと柔らかさを強調する点や布帛の質感を巧みに表現する点、耳たぶと指先に鉄心を用いて成形する点は同時代の乾漆像に通ずる。木屎漆の特性を生かした造形が随所にみられることから、制作は8世紀後半と推定される。

昭和17年(1942)から約1年間、文部省国宝鑑査官丸尾彰三(まる おしやうざぶ)郎の取り成しで鎌倉国宝館に出品された際には、新聞各紙が「鎌倉国宝館に天平の名作登場」と大々的に報じた。博物館での公開はおそらくそれ以来であり、西大寺阿闍如来像や薬師寺文殊菩薩像とともに乾漆像ならではの魅力をお楽しみいただきたい。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

■開館日時(1月～3月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※2月4日(土)以降、毎週土曜日は午後8時まで。
※3月1日(水)～3日(金)、5日(日)～10日(金)、13日(月)・14日(火)(東大寺二月堂お水取り期間)は午後6時まで。
※3月12日(日)(籠松明の日)は午後7時まで。

■休館日／毎週月曜日、1月1日(日)、1月10日(火)
※1月2日(月)・9日(月・祝)、2月13日(月)、3月6日(月)・13日(月)は開館。

■無料観覧日(特別陳列・特集展示・名品展)／2月3日(金)(節分の日)

■観覧料金 特別陳列・特集展示・名品展

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライカードをお持ちの方(介護者1名含む)、奈良博プレミアムカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)は無料(要証明)。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」

	一般	高校・大学生	小・中学生
当日券	1,600円	1,400円	700円

※障害者手帳またはミライカード(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名含む)、奈良博プレミアムカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)は無料(要証明)。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員(学生)の方は400円、同(教職員)の方は1,500円で当日券をお求めいただけます(要証明)。観覧券売場にて学生証または職員証をご提示ください。

※本展の観覧券で、西新館にて開催する名品展、なら仏像館・青銅器館の名品展もご覧いただけます。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。